



企画にあたって

末永祐哉

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学准教授)

心不全パンデミックという言葉をよく聞くようになってすでに久しいですが、いまだ心不全患者の予後は満足のいくものではありません。この心不全という疾患の理解および治療を難しくしていることの1つに、多様な併存疾患が非常に多くの患者に存在していることがあります。この併存疾患が多いほどその心不全患者の予後は不良であることが知られておりますが、その一方で併存疾患をどのように評価・定義すべきなのか、またそれぞれの併存疾患は心不全のなかで治療ターゲットとなりうるのか、またそうであるならばどう治療していくか、ということに関してまとまったレビューのようなものは、日本語で書かれたものとしてはそれほど多くありません。

今回の特集では、「診る」というパートにおいて心不全患者を診たときに高い頻度で遭遇する併存症についてのオーバービューを、「識る」パートでは心不全の治療方針に大きな影響を与えうる疾患またはセッティングについてその治療にまで踏み込んで解説いただいております。また、最後の「治す」というパートにおいては、心不全の併存疾患側からみたときに、どのような治療が併存疾患の治療をとおして心不全自体を改善させる可能性があるかについて論じられています。どのパートにおいても、各テーマの造詣の深い先生方に執筆をご依頼させていただき、大変すばらしい内容となっているかと思います。

繰り返しになりますが、心不全の治療は心臓だけに注目して治療を行えばよいわけではありません。今後多くの併存症を合併した高齢心不全患者がさらに多くなることを考えると、その治療にあたるうえで個々の心不全患者に合併した併存疾患を十分に識り、適切に評価し、そして治療につなげることは、実臨床における心不全患者の予後改善を目指すうえでは欠かせないことだと考えております。この点に関して、本特集がわが国で多くの心不全患者の治療にあたる方々の一助となることを祈っております。